

# みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会

TEL 0572-43-2141

発信：多治見市・笠原町東京情報局

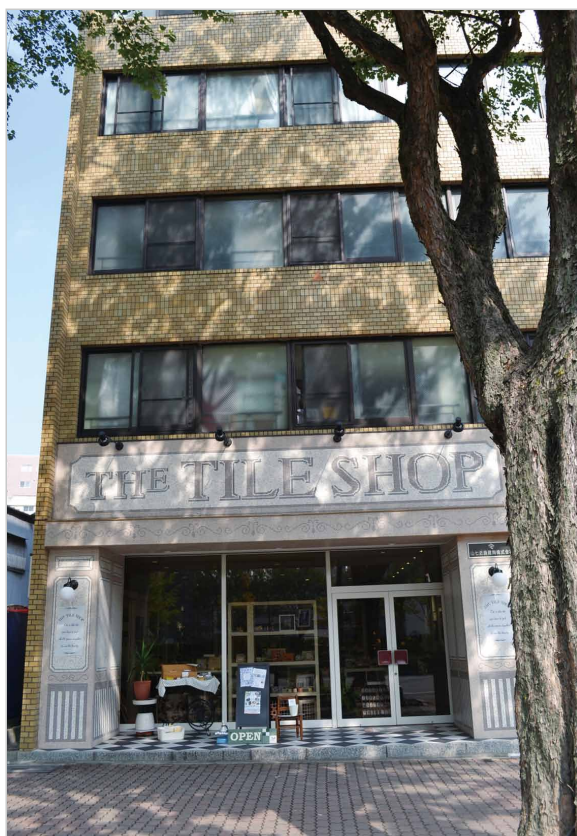
TEL 03-5225-6863

◆◆◆◆◆ 特集 タイルショップ&amp;タイルカフェ ◆◆◆◆◆

## タイルの素晴らしさを体感できる ショップとカフェの元気!

〈中部エリア編〉

THE TILE SHOP / Tile + Zakka M / SWANTILE CAFE



THE TILE SHOP



SWANTILE CAFE

タイルの産地が集積する中部エリアに昨年来、タイルショップ&カフェのオープンが続きタイルの本拠地が活気づいている。名古屋市には中心部に二つのショップがほぼ同じタイミングで開設され、多治見市の陶磁器メーカーが集積する美濃焼卸団地内にはタイルカフェが体感型タイルショールームのような形でスタートした。いずれも素材感や色・形状・テクスチャーなど豊富な種類のタイルやタイルパネルが並び、見て、触れて、楽しみながらタイルの魅力を体感できるショールームとしても機能する。タイル専門店として中部エリアの拠点となるような新しいしつらえが施され、タイルのことなら何でも相談でき、ゆっくり検討できるスペースとして活動を展開。躍動する三つのショップ&カフェをご紹介します。



## メーカー・商社・施工会社がコラボレーション

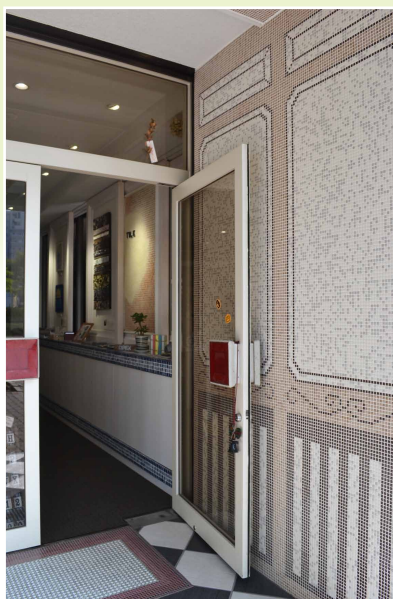
[名古屋市中区栄]



正面ファサード



入口左側タイル柱型



タイルショップ入口



モザイクタイルの秤売りコーナー



開放的なショールーム内観

タイルをもっと身近に、もっと楽しく。タイルの魅力や特徴をもっと知っていただきたい。そんな思いから、「THE TILE SHOP」は生まれました。

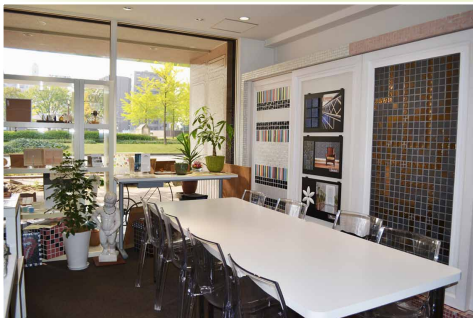
古くからタイルは、住まいの空間を思い思いに彩るアイテムとして愛されてきました。そこには、住まう人の暮らしに対する想い、価値観、美意識が映り出されています。タイルとは、まさしくその人のスタイル。その人の生き方を表現するパートナーです。だからこそ、タイルにはもっとできることがある。——そう私たちは信じています。「私たち」というのは、タイルメーカーの(株)セラメッセ(水

野雅樹社長)、タイル商社の長江陶業(株)(虎澤範宜社長)、タイル施工会社の山七近藤建陶(株)(近藤哲生社長)の三社で、まさに製販工が力を合せてタイル産地の新たな拠点となるタイルショップを2014年8月、山七ビルの1階に開設した。鳥居デザイン事務所によるショップデザインは、おしゃれな中にも誰にでも親しみやすい雰囲気に包まれる。ショップ内の商品レイアウトはショップマネージャーの長江由紀子さんが担当。長江さんは、タイルへの熱い思いを語る。「気に入ったタイルを小物に貼りたいと思っても、一般

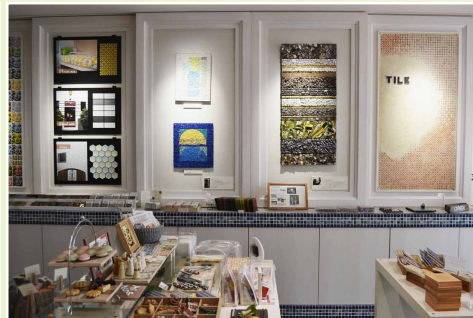




受付カウンターをのぞむ（左より虎澤社長、水野社長、近藤社長、長江マネージャー）



ワークショップコーナー＆商談スペース



ショップ右側のタイルアート展示



壁タイル装飾（ショップからのメッセージ）

の方はなかなかタイルを買えませんので、タイルの魅力にふれてタイルを身近な空間に使っていただきたいという思いが結実したショップです。最近はキッチンバックとかカウンターに好きなタイルを自分で貼りたいという方も多く、ネットで探してこのショップに見えます。自分で貼りたいという方には材料や施工のアドバイスもしますし、実際に施工の依頼があれば、施工店の近藤建陶さんに繋がられますので、国内産地の開発力、対応力を活かし、より多くの情報発信と、タイルの素晴らしさが体感できるショップとして、タイルの好きな方に少しでもお役にたてるよう努めていきたい。」

モザイクコースター・トレイなどを制作体験できるタイルのワークショップも随時、開催し、タイルの普及PRにも積極的に取り組んでいる。とくにタイルの日（4月12日）にはイベントとして無料で実施した。

Tile is like life, you have to put all the pieces together to see the beauty.

「タイルは一つひとつのピースを組み合わせる美しさを追求する、まるで人生のようだ。」という英文のフレーズが入口横の壁タイルに描かれている。

近藤建陶の近藤社長もタイルのお店づくりの同じような想いを静かに語っていた。

「タイルを知っていただける機会を少しでも広げること裾野が広がり、それがタイルの魅力や楽しさにふれるきっかけにもなりますので、焼き物やタイルを好きな方はいっぱいいるのに出会いのチャンスがないという状況を、タイルのネットワークが広がっていくことで突破できればと期待しています。」

#### THE TILE SHOP

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5-26-33 山七ビル1F  
（地下鉄名城線 矢場町駅から徒歩約5分）

TEL 052-263-1686

営業時間：10:00～19:00

定休日：日曜・祝日



## Tile+Zakka M

名古屋市中東区]

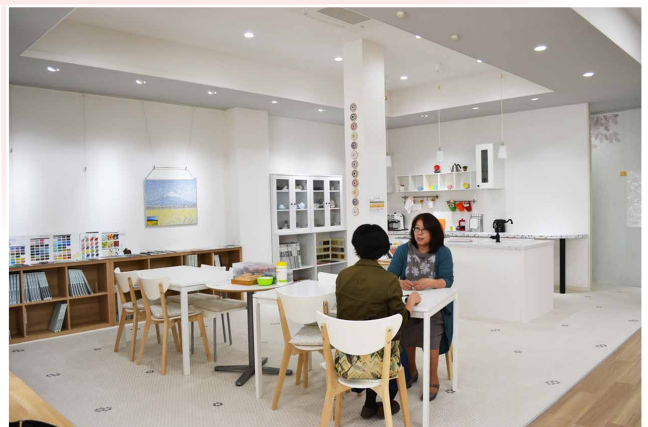
## 雑貨屋さんの感覚でタイルに親しめる場所に



ショップファサード（通り沿いには住宅メーカーや建築事務所が多い）



タイルのショーウィンド



ショールーム&amp;ワークショップスペース

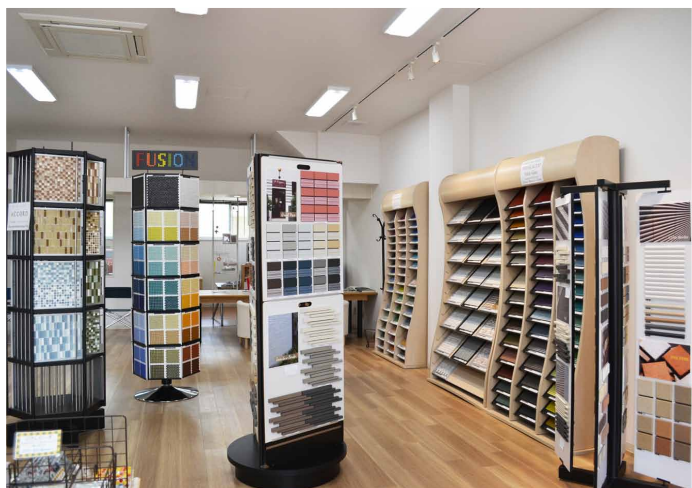
Tile+Zakka M（タイルザッカエム）は、タイルの卸業者である(株)ミキ（水越智紀社長）が2014年9月にオープン。広々とした空間で、手前ではモザイクタイルを販売、奥はショールーム、ワークショップスペースとなっている。周辺は住宅が多く、幼稚園や小学校があり、子どもを連れた30～40代くらいの若いお母さんたちがよく立ち寄る。

店名に「ザッカ」と称しているとおり、販売スペースでは、クラフトで使えるモザイクタイルや、1枚で買えるものを多く揃える。「うちは商社で、ガーデニング屋さんに輸入品を卸して

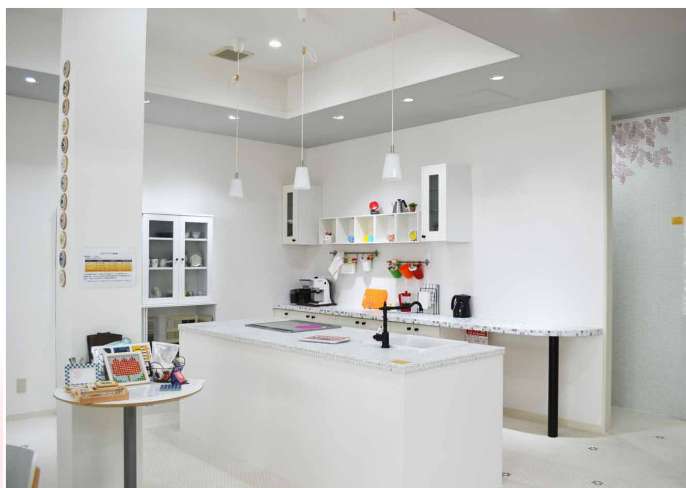
いまして、その部門は雑貨販売というしていました。それで雑貨みたいなものがあればいいと思ったのです。実際に、雑貨屋さんと思って入ってくる人も多いですね」と、店内のデザイン&ディスプレイを手がけたタイルスタイリストの川瀬くるみさんは話す。タイル施工もすべて川瀬さんが行なったという。

色とりどりのタイルに目を奪われて、長時間滞在する女性も多いというのも納得してしまう。タイルシートは、1枚150円のものから扱っており、小さなモザイクタイルは1グラム5円という気軽に買える値段設定も魅力だ。





ショップ内観（タイルパネル展示）



ショールーム・キッチンコーナー



モザイクタイルのはかり売りコーナー



デザインタイル



ショールームのコーナー部



ワークショップスペースではコースターなどのモザイクアートが体験できる（壁に並べて飾ってインテリアにすることを提案）

「幼稚園の子は、5円で1個だけ買っていきます(笑)」(川瀬さん)と聞くと、昔の駄菓子屋さんのような光景が思い浮かんでくる。

「そうやって、タイルに親しみをもってもらえたらいいなと思っています。」

一枚のささやかなモザイクタイルが、将来のタイルファンを育てていくのかもしれない。

#### ■ Tile+Zakka M

〒465-0025 愛知県名古屋市名東区上社 5—305  
(地下鉄東山線・本郷駅から南へ徒歩約10分)

TEL 052-734-2118

営業時間：10:00～19:00 (日曜日 13:00～19:00)

定休日：水曜・祝日



[多治見市・美濃焼卸団地]

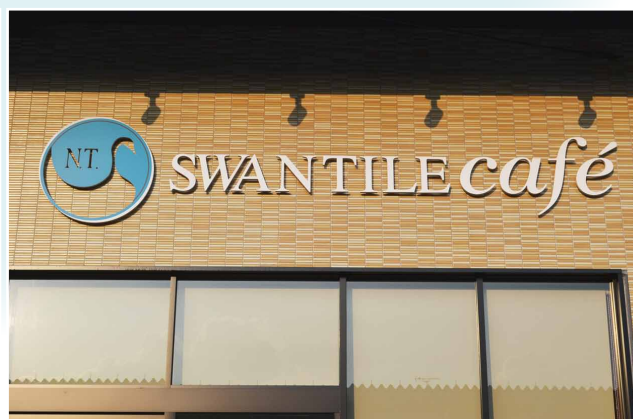
## タイルで埋め尽くされた空間でランチはいかが？



青と白色で彩られた、印象的な外観



カフェがある美濃焼卸団地は、美濃焼の卸業者、茶わんなどの食器製造業者、タイルメーカーなどの倉庫が並ぶ



カフェの外壁には SWANTILE CAFE のロゴマーク

カフェに使われたモザイクタイルの数は、約 14 万個。これほどタイルで埋め尽くされた空間は、ほかにないだろう。青と白で塗られた外観が印象的なスワンタイル カフェは、多治見市北部の美濃焼卸団地に店を構える。元は倉庫だったという広い空間を生かし、タイルメーカーの(株)日東製陶所(若尾幸将社長)が今年の5月にオープン。以来、地元の主婦を中心に口コミで広がり、今や他県からもお客が訪れる新たな名所となっている。「タイルは地場産業なのに、あまり地元の方に知られていません。そこで最初はショールームをつくらうとしたのですが、ふつうのショールームでは、一般の方は、入りづらい雰囲気もあります。どうしたら来ていただけるだろうと考えて、カフェにしたのです」と企画を手がけた加藤三奈さんは話す。

飲食メニューにも力を入れ、ランチタイムは主婦でにぎわい、予約必須という盛況ぶり。モーニングの時間帯は、周辺を散歩する住人たちの憩いの場となっている。一方で、ショールームとしてもしっかり機能。ギャラリースペースでは、試作中のタイルも展示し、インテリア関係の本も揃える。隣の部屋はワークショップスペースとなっていて、好きなタイルを使ってコースターを作ることができる。

ちなみに、一番の人気はエントランスから廊下の部分の壁に張られたタイルで、実際に受注につながった。

「キッチンのバックに張った写真を見せていただいたのですが、すごくいい感じになっていて、嬉しかったですね。」

メーカーなので取引先は商社であり、これまでは一般のお客さまに直接接する機会が少なかった。ここではタ





そこはかたなく異国情緒も感じさせる店内  
(天井照明には釉薬の桶を再利用したランプシェードが吊られている)



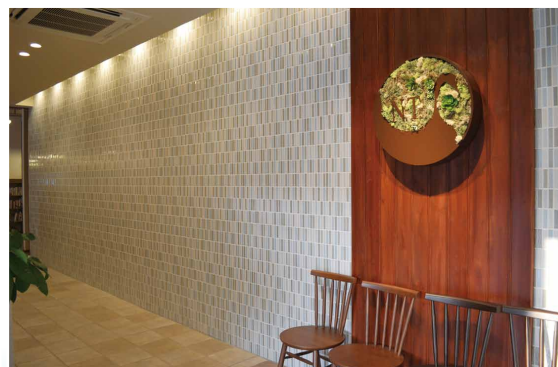
タイルギャラリー

イルを前に、いろいろな感想や意見が聞けるのがメリット。その意見を商品開発にもつなげたいと考えている。

聞かれるのは、いい意見ばかりとも限らない。目地汚れのことを質問されることも多く、「どうしても古いイメージがあるんです。」そういう声も聞かれた。とはいえ、加藤さん自身、地元出身ながら、それほどタイルに関心がなかったというから面白い。

「会社で働くようになって、タイルへの印象ががらっと変わりましたね。レトロな魅力や、彩りがきれい、焼き物のいいムラがあるといったタイルのよさをいっぱい知って、タイルマニアになりました(笑)」

古いという印象もあるものの、新たな魅力に気付いてもらうのは伝えかた次第、と実感させるエピソードである。実際、年配のお客さまからは、「懐かしい」と言われると同時に、「こうして見ると、昔とは全然違うイメージ



エントランスの壁タイル



タイル雑貨などの展示販売



タイルの張りめぐらされた店内(右側が加藤さん)

になるね」と、驚かれるのだとか。

いずれはタイルの製作工程がわかるような展示をしたいと考えている。

「タイルのことを少しでも知ってもらえる場所となるのが理想です。まだまだ未完成ですが、来るたびにお店が変化しているのを楽しんでもらいたいです」

地元住民ならずとも、二度、三度と通いたくなる場所になりそうだ。

#### ■ SWANTILE CAFE

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-15 (美濃焼卸団地内)  
(JR 多治見駅から車で約 15 分、中央自動車道・多治見 IC より車で約 5 分)

TEL : 0572-26-9516

営業時間 : 8:00 ~ 17:00/17:00 ~ 22:00 (17 時以降は完全予約制)

定休日 : 毎週火曜日と第 1・第 3 水曜日



## かさはら窯ぐれ祭り実行委員会が大和市に2度目の出展—— 「第6回全国ふるさとまつり／うまいもの市」で タイルアート体験コーナー！



タイルアート体験コーナー



激励に駆けつけ、美濃カフェで歓談する大和市長



大勢の家族連れがタイルアートを体験！



受付には一時行列ができるほど大盛況！



モザイク並べかえて楽しむ参加者！



併設の美濃カフェで寛ぎのひと時

神奈川県大和市の主催による「第6回全国ふるさとまつり／うまいもの市」が、10月3日（土）～4日（日）に小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」東側プロムナードで行なわれた。今年は合計31団体が参加し過去最大規模となり、例年以上に大いに賑わいを見せた。

全国に先駆けて「モザイクタイル」を誕生させた美濃焼きの町・多治見市笠原町でタイル企業、食器企業等で構成する「かさはら窯ぐれ祭り実行委員会（事務局：笠原陶磁器工業協同組合）」では、昨年に続いてこの「うまいもの市」に2度目の出展。タイルアート制作の体験コーナーを実施した。秋日和の両日、子どもさん、家族連れなど大勢の方々がモザイク張りに大いに盛り上がり、受付には一時行列ができるほどだった。また、大木さとる 大和市長も激励に会場され、タイルアートの楽しさを実感していたようだった。

### モザイクアートのPR活動

「かさはら窯ぐれ祭り実行委員会」では、モザイクによ

るカラフルで多彩なデザイン表現や身近な創作アートに広く親しんでいただこうと、近年、モザイクアートの体験指導に積極的に取り組んでいる。

基本的な考え方として、初回はタイルの魅力を伝えるためタイルは無償提供でイベントを行なうが、2回目以降からはある程度の実費負担で参加していただくというスタンスで行なっている。とはいえ、あくまでタイルのPR活動が主目的なので、有料といっても極力抑えた料金で実施している。

「タイルアートは行列が絶えず、皆様をお待たせしてしまいましたが、十分楽しんでいただけました。コーヒーは、12種類のマグカップから好きな絵柄を選んで、飲み終えた後に持ち帰っていただけるということで、予想以上に好評でした。また、マグカップの別注の問い合わせや保育園でのタイルアートの検討のお話があったりと、今後の展開につながる活動ができました」とスタッフの皆さんも大いに手ごたえを感じていた。